

第 2 回（4/16）ファッションをめぐる神話

1. 連絡・報告

お詫び：授業 Web サイト、更新できず → 初回のレジュメ予備用を持参しました

2. BBS 投稿から

「初回の講義で新しいことに挑戦することの大切さを改めて実感した。時間がないなど言い訳をせずたくさんのことに興味を持ち実践していこうと感じた。

「実社会について学ぶ事が出来た。自分から動く、決める、コミュニケーションスキルの三つのことを今後の生活で実践していきたい。また、自分の可能性を伸ばすために初めてのことに、挑戦する事で自分の成長に繋がると思った。

「第 1 回のガイダンスでは、大学の 4 年間で学んでおくべきことについて 3 つ学びました。それは、自分から動く・自分で決める・コミュニケーションスキルです。今の自分には自分で決める判断力が身についていないので学生生活を通して少しでも身につけられるように学んでいきたいです。

「…学生生活で何を学んでそれをどう就活に活かすかを改めて考えました。自分から動く、自分で決める、自分の可能性を伸ばす、今後は自分自身の行動で自分の将来が決まってくる中でこの講義を通し社会的な観点や自分のスキルが上がるよう積極的に学んでいきたいと思いました。

「今回の授業の序盤に「新しいことに挑戦する」という話があった。なぜ多くの人がひとつの新しいことを好んで挑戦するのか、そこにはどのような感情が働いているのか、など今後ファッションや言葉など様々な流行に触れて社会を見る力を習得したいと思う

「18 年前のデータを見て、現在の一般的価値観とは異なる点があり面白い思った」

「流行という言葉は、ファッションに関しての事柄に使われる事が多いイメージがあったので、今日先生が言葉にも流行があると言った時、確かに考えてみれば他の物にも流行はあるな〜と気づけて面白かった。」

「「流行」という言葉を聞き、真っ先にファッションをイメージしたが、これだけでなく言葉、しぐさ、病気などさまざまなものがあることに気がついた。それと同時に自分の知らないものごとがたくさんあることを自覚し、これからの学生生活でできる限りの知識を吸収していきたいと感じた。」

「流行はトレンドいわゆるファッションを想像していたが、人々の社会現象でありアイデンティティ・コミュニケーション行動にも密接であることがわかった。どんな時にどの様な繋がりを持っているのか今後の講義で学んでいきたいと思う。」

ほか多数！

3. BBS 投稿について

趣旨・目的：

- 質問、コメント、意見交換 + 授業運営に関する要望・クレーム
- 教室内での質疑応答・ディスカッションが理想（代替策としての BBS）
- しっかり学ぶ（cf. “生きた学問”）、復習（＝授業で投げかけられた問題を自分でも考えてみる）
- “空気”に流されない。ヨイショ発言ばかりでなく、talking straight で
- 受講者 ⇄ 榎本 だけでなく、「横レス」（受講者 ⇄ 受講者）を

携帯端末でも投稿できますが…（PC からアクセスすることを推奨します。理由…）

この授業が目指すもの ex. 発問、マイク、BBS…

- ①
- ②
- ③

4. “ファッション”という言葉の意味

意味のズレやニュアンスの違い

① 翻訳語のあいだ（異なる言語文化のあいだの意味のズレ）

- 英米語 “fashion” ⇄ 日本語 “流行”
- 「インフルエンザが流行る」？
- 「流行歌」→ “popular song”
- 英米語 “fashion”に「服装」の直接的語意は無し

② 類義語のあいだ（同一言語内での類義語）

“fashion” の類義語

- 「モード (mode)」「ヴォーグ (vogue)」「トレンド (trend)」「ブーム (boom)」「ファッド (fad)」「クレイズ (craze)」「レイジ (rage)」…
- 「スタイル (style)」「ルック (look)」「シェイプ (shape)」「ライン (line)」… ←属性 (形状やあり方) に焦点

「ファッション」の語源

- ラテン語 “factio (facio + tio)”
- ものごと（モノやことがら）のあり方
- ものごとをつくりだしたり生みだしたりすること、その仕方や方法

共通要素（意味のズレやニュアンスの違いを超えて互いに結びあう何らかの意味の共通要素）

「ファッション」の語が意味するもの → 「 」

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦

ファッションの機能（はたらき）

-
-
- 見えざるものを見えるようにし、見えるものを通じて見えざるものを変えていく企て
- 可視的な変化 ⇒ 不可視的な価値観や生き方の変化

5. “ファッション” という概念

学術的（人文・社会科学）用語としての概念

表1 “ファッション” の古典的な定義にみるパターン

着眼ポイント	定義内容の例	研究者
① 動機づけ、心理的な誘引、欲求充足にみる特性からとらえる方法	● 他者との同一化と差別化とを同時に達成しようとするアンビバレントな“欲求充足” ● “見せびらかし”の浪費 ● 行動の“新しさに導かれる”習慣的な行為 ● 集団行動への“心理的な誘引”	G. Simmel (1904) T. Veblen (1899) M. Weber (1922) 南 博 (1957)
② “行動”面での特性からとらえる方法	● 短絡的かつ享樂的な大衆の“巻き込まれ” ● “模倣”の法則 ● 同調のための“集団的な模写” ● 模倣による非合理的な地位再確認と自己表現 ● エリートを目指す模倣による非合理的で移ろいやすい散発的な行動様式 ● 生活の福祉に関するモーレスより低次元の大衆“運動” ● 肯定的な願望充足信念にもとづく“集合行動” ● 趣味・嗜好、思考や判断、行為や動作の様式を選択・採用・廃棄する社会的な“同調行動”	J. Lofland (1985) G. Tarde (1895) C. A. Ellwood (1918) R. L. Gold (1964) W. G. Sumner (1940) N.J. Smelser (1962) 斉藤定良 (1959)
③ 社会心理的な“プロセス”として規定する方法	● 効用原則に決定づけられない“選択の変化” ● 時勢に従う一時的受容にみる変化の“連続的パターン” ● 新しいスタイルが創造・導入・受容される動的な“社会過程” ● 新しい行動・思考様式としての社会的な“普及過程” ● 人間意識の反映した領域での時空間的な“集中現象”	E. A. Ross (1925) H. Blumer (1968) G. B. Sproles (1979) 川本 勝 (1981) 電 通 (1983)
④ 社会心理的なプロセスや特定の現象の“結果”ないし“産物”として規定する方法	● 集団採用された“行動や思考の様式” ● 所与の時点で広く普及しているスタイル ● 文化的パターンとして期待される社会的慣例 ● 多数者が受容した行動様式や社会的慣例 ● 慣習からの離脱を装う慣習 ● 行動様式を各自の自発的意志に従って採用する結果 ● 一時的で集合的な“創造の産物”	E. S. Bogardus (1924) P. H. Nystrom (1928) K. Young (1953) M. Kefgen ら (1986) K. Young (1956) E. Sapir (1931) 池内 一 (1968) 藤竹 暁 (1969)
⑤ 現象の形態的な特徴や行為様式の性格づけから規定する方法	● 時空間的広がりや持続性、拡散性、可変性、短命性、一過性、周期性、新奇性、瑣末性、自然発生性などの性質 ● 集合性や非組織性、同類性、創発性、感情表出性、非制度性、非合理性などの特質	D. L. Miller (1985) G. Marx ら (1994)

(土屋 2009: 22)

検討課題：例）流行現象がどのようなメカニズムで生じるのか → 経験的に解明されるべき課題

6. ファッションをめぐる神話

①「ファッションは非合理的」？

古典的な理解： 流行は人びとの感情による自然発生的（非制度的）で予測困難な現象

cf. 社会科学の古典的前提：目的合理的（制度的慣習・効用・利害・目的・手段に合致）な行為

↓

-
-
- 慣習的な行為をもっては解決しえない問題状況への遭遇
- ルーティーン化された日常の倦怠感からの解放欲求

↓

-

②「ファッションは回帰（リバイバル）する」？

ある時代のファッションは、歴史とともに人びとの記憶の箱に納められている（集合的記憶）

↓ しかし

-
-

③ 消滅と制度化

「消滅型」「定着型」といった単純な類型論

↓

ex. “モンペからスカートへ” “スカートからパンツへ” ←スタイル（アイテムの構成要素）の変化

“マキシからミニへ” ←アイテム（スカート）のなかでの変化（下位レベルでの変化）

-
-

④「流行の発生には階級格差が関連する」？

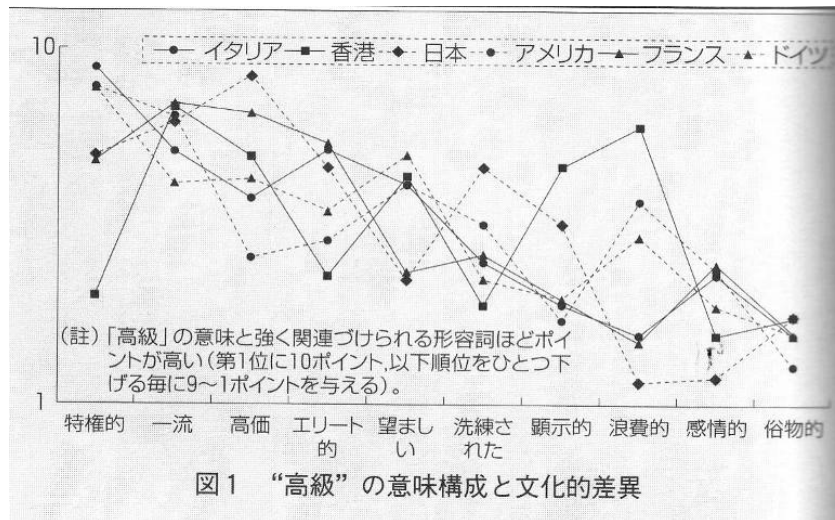
古典的理解

「滴下モデル」：流行は上流階級の人びとが採用し、その後に大衆クラスの人びとがそれを模倣して広まる（トップダウン原理）

「草の根モデル」：革新的な流行は民衆や大衆の生活や“ストリート”から生まれ、しだいにボトムアップされて上流階級へと波及していく

↓

-
- 歴史文化の背景と社会経済の状況をふまえた理解が必要



(土屋 2009: 43)

⑤「流行は予測可能」？

現代的状況：

流行は、何らかの“仕掛け”（ギミック）によって作り上げることができる、という信念
流行は予測するものではなく仕掛けるものだ！

ex. マーケティング、マーチャンダイジング、広告・宣伝

↓

-
-

cf. 「資源」 お金（媒介手段）「買いたいけれどお金がない」 ⇔ **その逆（以下同様）**
 時間（暇） 「買い物に行く時間がない」 「買い物を楽しむヒマがない」
 空間（場所） 「商品を売っている店が近くにない」
 情報（知識・センス） 「商品を選ぶ知識や情報、センスが足りない」
 社会関係（友人） 「周りの友人たちは流行にあまり関心がない」

- 流行現象には個人の心理や行動（ミクロ世界）だけではなく、集団や組織、産業、地域社会・国家といったマクロ世界のダイナミックな社会的相互作用とも深い関連性がある

7. 引用・参考文献

土屋淳二、2009、『モードの社会学（上）——ファッション帝国の＜裸のプチ王様＞』学文社

8. 次回の予告

4 月 23 日 ファッション、トレンド、消費行動 ——ファッションの社会的機能

以 上

【授業 HP】 <http://t-enomoto.la.coocan.jp/komajo/>

【BBS】 <http://9113.teacup.com/tenomoto3/bbs>

この授業が目指すもの



- ① 自分のあたまを使って考えること
- ② 自分の考えを言葉で表現すること
- ③ 人前（公の場）で発言することに慣れること

「ファッション」の語が意味するもの→「表象文化」



「表象」

「観念として頭に思い浮かべること／思い浮かべたもの。」（三省堂『新明解国語辞典』）

「ファッション」の語が意味するもの→「表象文化」



- ① 人びとの“着こなし”
- ② 身体表現のありさま
- ③ 身のこなし方
- ④ 感情表出の方法
- ⑤ ものごとへの感覚的なとらえ方や考え方
- ⑥ 趣味・趣向の中身
- ⑦ 時間や場所の過ごし方

ファッションの機能(はたらき)



- 文化の根底にある精神文化(不可視) ⇒ “かたち”として表象(可視的)
- 根底にある精神文化の姿そのものを変えていく力
- 見えざるものを見えるようにし、見えるものを通じて見えざるものを変えていく企て
- 可視的な変化 ⇒ 不可視的な価値観や生き方の変化

ファッションをめぐる神話 1



①「ファッションは非合理的」？

- 無秩序なアノミー的行動ではない
- 日常的な社会関係・役割・コミュニケーションとの関連性がみられる行動
- 社会制度や社会の秩序を乗り越えようとする人びとの集合的な営み

ファッションをめぐる神話 2



②「ファッションは回帰(リバイバル)する」?

- 完全な再現というかたちでの流行回帰はありえない
- “復古調アイテム”に注がれる現代的な(異なった)まなざし・意味

ファッションをめぐる神話 3



③ 消滅と制度化

- 下位レベルでの変化は、上位レベルでの変化よりも制度化されにくく、消滅しやすい
- 変化している部分はどこか、制度化されるものは何か、という具体的視点が必要

ファッションをめぐる神話 4



④「流行の発生には階級格差が関連する」？

- 上位／下位、高級／低級という序列がもはや流動的な現代社会
- 歴史文化の背景と社会経済の状況をふまえた理解が必要

ファッションをめぐる神話 5



⑤「流行は予測可能」？

- われわれが知っている流行・ファッションとは成功事例のみ。背後に無数の失敗事例
- 人びとの欲求から、意思決定、行動実行にいたる複雑なプロセスへの着目が必要